

# ポートフォリオ学習を取り入れた英語授業の試み ー自律的英語学習を目指してー

土持 かおり

はじめに

近年、学習者の自律性を重視した授業に焦点が置かれるとともに、従来の「教師主導型」から「学習者中心型」授業への移行が英語教育でも主流となりつつある。学習者の自律性を重視し、「自律的学習」を促進する実践・研究が盛んに行われているが、その中でも注目を集めているのが、「ポートフォリオ」を取り入れた授業実践である。ポートフォリオとは基本的には「ある目的のもとに学習者の作品などを収集したもの」であり、教育分野におけるポートフォリオは簡潔に表現すると、目的つき学習ファイルということができ、この点では学習プリントなどを無目的に綴じ込んでいくファイルとは明確に区別される。ポートフォリオの定義は多彩であるが、「収集」「選択」「事項省察」というキーワードによって表現される3つのプロセスを共通して持つことで語学学習にも有効に活用することができることから（小嶋他、2010）、日本でも学習者の自己省察・自律を促す目的でポートフォリオを授業に組み込む試みが報告されている。

筆者は教養科目の英語授業で映画を利用したリスニングの授業を行っている。映画はリスニングが苦手な学生でも興味も持ちやすいという利点もあるが、映画の英語は市販のリスニング教材に比ベナチュラルな英語だけに難易度が高いという問題点もある。さらに「受け身」的な授業に慣れている多くの学生達の中には明確な目標もないままに学習意欲が低下していく者も出て来ており、従来の教師中心の授業ではなく、リスニングを含め自らの学習活動に責任を持たせて自律的に意欲的に授業に取り組めるような授業への移行の必要性を感じていた。そこで、筆者は2年前から市販テキストに代わり自主作成教材を使用するとともにポートフォリオ学習を取り入れることで学生が自らの学びに自律的に関わっていける授業実践を試みている。本研究は、教育的ツールとしてポートフォリオを導入することで自己評価、自己学習のモニターを焦点に置き授業改善を行ったアクションリサーチの視点からの取り組みでもある。

本稿では、まず、ポートフォリオの成立背景から始め、次に語学学習の状況でのポートフォリオを導入することの有効性を示す理論的根拠について述べる。さらに、日本での語学授業におけるポートフォリオの取り組みを考察し、次に筆者が授業に導入したポートフォリオを紹介した上で、学習者が自律的に、そして意欲的に学習に取り組むという点でどのような効果があったかについて、学生に実施したアンケート結果2年分を基に報告する。

## 1. ポートフォリオの成立背景

「ポートフォリオ(Portfolio)」とは元来直接の教育用語ではなく、語義の上では「今までに制作された一連の作品群」といったものが近いと思われる。語学教育と密接な関わりを持つに至ったのは欧州評議会(The Council of Europe)が提唱した外国語教授法としてのポートフォリ

オ学習であり、「ヨーロッパ言語ポートフォリオ(ELP)」が考案、開発された(新沼、中川 2005)。  
ELP は欧州評議会の言語教育政策を推進するために考案され、言語学習を促し、欧州評議会加盟国間の移動を促進することが目的とされている。ELP は「言語パスポート(language passport)」「言語学習記録(language biography)」「資料集(dossier)」の三部から構成される。「言語パスポート」には学習者の言語に関する資格や公的評価、言語学習経験や異文化体験を記載し、学習者の言語能力を証明するパスポート的な役割を果たす。「言語学習記録」は学習者が学習進行状況を記録し自己評価を行う学習ダイアリーのようなもので、自己内省により自律的学習を促し、ELP の中心的役割を担う。「資料集」は学習過程において作成した課題やレポート、プロジェクトワーク、学習記録、学習成果を収集・保管し、学習の熟達度を認識する役割を果たす(加藤、2010)。Little (2002)によると、ELP は外国語教育の連続性を保つために重要であり、学習動機を高め、自律的学習を促すとされている。

## 2. ポートフォリオの有効性

近年になり欧州以外でもポートフォリオを活用した学習が注目され導入されつつある。ここではポートフォリオを授業に導入することの有効性を示す理論的根拠を先行研究から明らかにしていきたい。Danielson & Abrutyn (1997)は、ポートフォリオの定義を様々な文献から引用した上で、その定義は多彩であるが同時に次のような共通点を有していると述べている。

- (1) ポートフォリオが学習者の学習資料を「収集」したものである。
- (2) 資料収集はランダムにではなく目的を持って行われ適切なエントリーが「選択されている」。
- (3) 学習者が資料に基づき「自己省察」を行う。

また、ポートフォリオ作成上の主要な相違は、その目的は「評価」であるのか「教授学習手段」であるのかという作成上の目的の相違によって生じるものであることを述べている。ポートフォリオは、教師には適切な指導の枠組みを与えてくれる有効な評価方法として使用できる一方、学習者の自己評価能力を高めるとともにメタ認知能力(metacognitive ability)を高めるとされており(Smolens, Newman, Wathen, & Lee, 1995)、教師と学習者の両者にとって、評価手段と学習手段との両面から授業に取り入れる意義は大きいと考えられる。

さらにポートフォリオ学習は「メタ認知ストラテジー」の使用を可能とする方略で学習を効果的に進める要素とされ、「学習者がリフレクション(自分の認知過程を省察する)、モニタリングしながら効果的に学習を進めていく活動」を顕在化するものとして位置づけられている(加藤、2010)。これらを含め、より具体的なポートフォリオ使用の利点としては、1) 学習者が学習の過程を振り返ることができる、2) 一定の期間に迫る継続的な評価が行える、3) 学習者独自のものが作成でき、達成感を感じることができる、4) 自分の学習管理を行うことで学習に対する責任を高めることができる、5) 学習を振り返ることで弱点や力の向上を評価し目標を(再)設定するのに役立つなどが挙げられる(下、2006)。つまり、ポートフォリオを活用し

た授業活動では学習者に自らの学習に責任を持たせて学習意欲を高め、学習の自律性を向上させるための機能が備わっていることが分かる。

### 3. ポートフォリオを導入した授業の先行研究

ポートフォリオはどのような授業にあっても活用が可能であり、様々な授業で導入した際の学習者にもたらす効果が報告されている。授業に導入した研究はリーディングの分野で多く、Carrell(1998)は、メタ認知的リーディング・ストラテジーを定着させるためには、学習者が自分自身のリーディングを批判的に自己省察する機会を教授に組み込む必要があることを指摘している。Smolen, Newman, Wathen, & Lee(1995)では、学習者のメタ認知的な「自己省察」を促すことによってリーディング・ストラテジーを身に付けさせる手段としてポートフォリオを取り入れ効果があったことが報告されている。日本においては、峯石(2002)では、大学でのリーディング・ライティングプログラムにポートフォリオ作成を組み込み、テスト結果に有意差は認められなかったもののポートフォリオによる動機づけ効果が認められたこと、また多くの学習者がポートフォリオ作成に関して英語学習に積極的な効果を及ぼすと捉えていることが報告されている。

佐藤・山名・中川(2004)では、PCでの英語授業(CD-ROM教材による個人学習中心の授業)にワークシートに授業活動を記録しノートに貼ることでポートフォリオを作成する活動を組み合わせた指導法を行い、学習効果(文法項目などの習得)という点では不満足な点も多いが、学習意欲を引き起こす上では大きな効果を上げたことが報告されている。新沼・中川(2005)では、大学のリメディアル教育へのアプローチとして Assessment Portfolio の学習形態を導入している。LL 教室での発音・リスニング学習に単語や熟語、例文などをノートに書き加えていくというノート作成を中心としたポートフォリオ学習を行い、それを教員が随時チェックし改善点等を書き加えるという形態は多くの学生に好意的に受け入れられ、ノート作成の評価への反映・ノート作成によって得られる達成感と充実感、教師による丁寧なチェックが学習者のやる気を喚起することにつながったという結果がアンケート調査から報告されている。

コミュニケーション能力向上中心の授業にポートフォリオを導入した先行研究として、加藤(2010)は教養科目の授業(リスニング・リーディング・グラマー)において学習者の自律的学習を促し、モチベーションの維持を図ることでドロップアウト者数を減らす手立てとして学習者ポートフォリオを導入し、学習意欲(4点法アンケート)、学習成果(TOEFL点数の上昇率)の両面において有効であり、特に習熟度の低いクラスの学習成果にポートフォリオの効果が顕著に表れていることを報告している。これは習熟度の高い学習者はすでに自律的学習習慣が身に付いているためではないかと考察している。

英語以外では、玉木(2008)はELPを構成する一部である、「学習日記」と「学習チェックリスト」をドイツ語「文法」のクラスに導入し、前者においては教員と学生との間のコミュニケーションが活性化された点、また後者においては学習の動機づけに繋がったことを報告している。

#### 4. 本研究の課題

筆者は、本学 2 年次生の前期開講科目である教養英語で、映画を教材としたリスニング授業を担当しているが、2013 年度と 2014 年度はそれまで使用していた市販テキストに替え、ポートフォリオ作成を取り入れた授業実践を行った。ポートフォリオを導入した目的は、学習者が自己モニター、自己省察、自己評価を行いながら自律的にリスニング学習に取り組むことにより、学習意欲・自律性といった情意的なレベルでの向上を促すことにある。またポートフォリオの効果が先行研究でも明らかになっているが、筆者の授業の中で学習者がポートフォリオの導入により学習意欲の向上を感じとることができたか、自律的に英語学習に取り組めたか、またこの点で効果があったとすれば、ポートフォリオ学習のどのような点によると考えられるかを、学習者に実施したアンケート調査（選択式、記述式）を分析することで明らかにすることである。

#### 5. 方法

##### 5.1. 参加者

対象者となるのは筆者担当の教養科目の英語を受講した 2013 年度 2 年生 21 名と 2014 年度 2 年生 16 名である。授業は前期開講・週 1 回（90 分）×14 回の映画を教材として使用したリスニング・スピーキング力の向上を目標としている。筆者のクラスも含め教養科目の英語授業は少人数教育を目的としているため 1 クラス 20 名程度としている。

##### 5.2. ポートフォリオの構成と導入法

様々な教育者がポートフォリオの定義づけを行っているが、共通した重要な特徴は、(1) 個々の学習者の作品集であること、(2) ある特定の目的を持って構成されたフォルダーであること、(3) 学習者が自己の作品に対しコメントや自己省察の機会を持つものであること、の 3 点であることが指摘されている(Danielson 他、1997)。特に 3 番目の「自己省察」のプロセスを通して学習者は自分自身の学びに対する気づきの機会を増やしていくことができ、この点がポートフォリオを導入する授業としない授業の大きな違いであることも指摘されている。これらを踏まえ、2013 年度及び 2014 年度の授業に導入したポートフォリオは、「学習ファイル（資料集）」、「リフレクション・シート（自己学習省察記録）」、「セルフ・チェックリスト（自己学習評価シート）」の三部から構成される。

「学習ファイル」は予習用のワークシートを含め授業で取り組んだワークシート類を一つにまとめる役割を果たし、その内容は各ユニットごとに、リスニング演習場面の語彙・フレーズ等から成る予習シート、リスニング演習場面に出てくる事項を中心に音声変化・リズム・イントネーションを扱ったワークシート「Listening Tips」、内容理解問題、ディクテーション・シート等で構成され、授業終了後に全てファイルに綴じさせ提出させた。学習ファイル導入の目的は、ユニットごとの資料を学習者が見直すことで学習内容を復習できること、また自分の問題点・進歩した点など自己の取り組み具合を認識できるという点である。

「リフレクション・シート」（資料 1）は A4 半分の冊子で、毎回授業終了前に 5～10 分程度

時間を取り、特に有益と思われた学習内容、リスニング・スピーキング演習についての振り返り、映画の感想、質問を所定の欄に記入させた。「リフレクション・シート」導入の目的は、単に授業を受けっぱなしで終わらせるのではなく、毎回、学習内容とリスニング・スピーキングの自己の取り組みを振り返りながら記録することで問題点や進歩した点を認識させることと、教員からのアドバイスを踏まえ、次回の学習につなげるということにある。新沼・中川(2005)でも、教師による丁寧なチェックが学習者のやる気を喚起することにつながったという結果がアンケート調査から報告されていることから、筆者も毎回丁寧なチェックを心がけた。具体的には、授業終了後、筆者は「学習ファイル」に綴じられた予習プリント及び授業でのワークシートを見ながら各学生の取り組み具合をチェックし、さらに「リフレクション・シート」に記入された学生の自己省察を読み、アドバイスや改善点、感想等を記入し、質問には回答をした。「学習ファイル」と「リフレクション・シート」は学生が事前に目を通せるように毎回授業開始前に学習ファイルとともに教卓に置いておき各自受け取らせる、という形態の返却法を取った。

「セルフ・チェックリスト」(資料2)の目的は、リスニング及びスピーキングについて定期的に自己評価という形で学習者自身に自己の能力を認識させることにある。具体的には、ELPの能力記述文「～ができる(can do)」に倣い、Can-do リスト的に教師が定めた項目において、「できる・なんとかできる・あまりできない・まだできない」の4点での自己評価および自己設定した到達目標について定期的に自己評価させることで自律的学習を促進させることにある。自己評価は第1回授業、第7回授業(中間点)、第15回授業(最終授業)の3回行わせ、また初回授業では Can-do リスト項目以外にリスニング、スピーキングそれぞれについて各自の到達目標を設定し記入させた。「セルフ・チェックリスト」は枚数が少ないため、「学習ファイル」の最後に収めた。

本研究の対象となる学生はポートフォリオ形式の授業を受講するのは初めてであり、自己省察を行うということも初めてである。それ故、第一回目の授業でポートフォリオの意味と導入の目的を学生に説明し、特に「リフレクション・シート」の記入により授業内容と自己の取り組みを振り返ることの学習上の重要性について詳しく説明し、毎回記入することの意義を認識させた。

## 6. アンケート結果および考察

アンケートは筆者作成のもので学期末に実施した。項目は以下の通りである。

- (1) 学習ファイルに関して (1項目)
- (2) リフレクション・シートに関して (4項目)
- (3) セルフ・チェックリストに関して (2項目)
- (4) ポートフォリオを用いた英語学習に関して (2項目)

全て「強く思う (4)、思う (3)、あまり思わない (4)、思わない (1)」の4点法の選択式で回答させた。さらに、筆者はアンケート調査に際して、ポートフォリオ学習に関して学生がどのような印象、感想を抱いたかを詳しく知るために、以下の3つの項目について自由記述させた。

1. この授業ではテキストを使用せず、「学習ファイル」を作成していく方法をとりましたが、このような形式についてどのような感想を持ちましたか。
2. 毎回、授業や自己の取り組みを振り返りながら「リフレクション・シート」に記入するやり方にどのような感想を持ちましたか。
3. 「リフレクション・シート」に毎回、教師がコメントを付けることについてどのような感じましたか。

2013 年度及び 2014 年度のアンケート結果を以下に示す（表 1～表 9）。なお、各表中の数字は実数で、括弧内は％を示す。自由記述に書かれた感想も交え、各項目の結果を順に考察していきたい。

### （1）学習ファイルに関して

表 1. 学習ファイルを作成していくことで主体的に授業に取り組めたと思う。

	4	3	2	1	平均値
2013 年度	6 (28.6)	12 (57.1)	3 (14.3)	0 (0.0)	3.14
2014 年度	8 (50.0)	8 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	3.50

表 1 に見られる通り、2013 年度約 85%、2014 年度全員が学習ファイルを作成していく授業に主体的に取り組めたと思うと回答している。自由記述 1 の中で特に多く見られたキーワードは「達成感」、「ファイルの見直し」、「主体的」などであり、2013 年度、2014 年度の学生全員が学習ファイルを作成していく形式の授業を肯定的に捉えた記述をしている。以下に何点かを挙げる。なお、（ ）内は年度を示す。

（2013）自分の学習の成果が少しずつ積み上がっていくので達成感がありました。

（2013）自分の成果をすぐ目にすることができるのでやる気が出ました。

（2013）Listening Tips はわかりやすく、つづつあることでいつでも確認できよかった。

（2013）とてもわかりやすくまとめてあったので何の抵抗もなく難しい英語の勉強ができた。  
細かい所まで丁寧に作成されていたので毎回の授業が楽しかった。

（2014）いつ何度でも見直して復習することができたのでとてもよかった。またファイルが厚くなっていくほど、「また 1 つ覚えたことが増えた」と嬉しく思えました。

（2014）自分で予習をしてきて自分で記入することで市販のテキストの英語の授業とは違い自然に主体的に授業に取り組めたと思う。

（2014）ファイルだとこの授業での自分の成長がわかり何が弱点かも把握することができてよかった。

今後検討すべき点としては、ファイルは試験前にだけ持ち帰らせたが、もっと自宅で見直す機会が欲しかったという意見があったことである。

## (2) リフレクション・シートに関して

リフレクション・シートに関しては、教員コメントについての質問を含め 4 項目である。表 2、表 3 から、自己の取り組みを振り返りながら記録することで主体的に授業に取り組めたと感じている学生が多いことが分かる。2014 年度と 2013 年度では、学習意欲の向上につながったと強く感じている学生の割合に大きな差が見られるが、両年度とも 9 割程度の学生が 3 以上を選択していることから、学習意欲の向上に何らかの効果があったと考えていいであろう。今後改善すべき点としては、記入する時間がもっと欲しかったと書いている学生が少なからずいたことである。振り返りに時間を要する学生もいることから余裕を持って記入できる時間を設けることも大切であろう。

表 2. リフレクション・シートで毎回自己の取り組みを振り返る機会があることで主体的に授業に取り組めたと思う。

	4	3	2	1	平均値
2013 年度	6 (28.6)	14 (66.6)	1 (4.8)	0 (0.0)	3.24
2014 年度	8 (50.0)	7 (43.8)	1 (6.2)	0 (0.0)	3.44

表 3. 毎回、自己の取り組みを振り返り記録していくことは学習意欲の向上につながったと思う。

	4	3	2	1	平均値
2013 年度	1 (4.8)	18 (85.7)	2 (9.5)	0 (0.0)	2.95
2014 年度	8 (50.0)	6 (37.5)	2 (12.5)	0 (0.0)	3.38

自由記述 2 の中で多く見られたキーワードは、「振り返ること」、「目標」、「課題」である。毎回、1 つの項目について 2～3 行書いている学生もいれば、1 行程度の学生も少なからずいた。しかしながら、継続的に自己の取り組みを振り返ることは、次回の学習の目標設定にもつながったようで、このことが主体的に授業に取り組むきっかけを与えたと考えられる。以下に何点かを挙げる。

- (2013) 授業を受けて終わりではなく、自分のできた点・できなかった点を振り返る機会を持つことができたので良かったです。
- (2013) 自分が出来るようになったところ、まだ頑張らないといけないところを毎回記入出来るので次週の目標がたてやすかったです。
- (2013) 改めて、その日のリスニングやスピーキングを最後に振り返ることで課題が見えてくることもあってよかった。
- (2014) 毎回の授業での自分の弱点と向き合い目標を設定することができた。
- (2014) 記入することで、自分の何がだめだったか、次にどう生かせばいいのかじっくり考えることができ、より意欲的に取り組むことができたと思います。
- (2014) 今日できるようになったことや毎回授業の反省ができるので、次の授業に改善する目標が分かるので良かったです。



(2014) シートに書き込みながら、前回よりも出来るようになった所やこれからの目標などを自分自身で見つけることができて、嬉しかったし楽しく学習意欲を持つことができた。

(2014) 最初慣れないうちは短時間で振り返っても良い点、反省点をうまく見いだせなかったが、回数を重ねることで授業の途中であっても反省点や先週より良くなった点を意識するようになりました。

最後の記述に見られるように、過去の授業で自己省察の機会がない学生にとって、このような振り返りの記録を取ることは難しさもあるようで、慣れていくことが必要であることが伺われる。また、「あまり上達できなく同じことばかり書いてしまい書くことに困ってしまうこともありました。」との感想が 1 件あり、このような学生の問題点・弱点を教員がワークシートから発見し適切なアドバイスしていくことの必要性が感じられる。

教員からのコメントが学生にどのような効果を与えたかについては、表 4、表 3 に示す通りである。シートに毎回 4～5 行のコメントを記入することは、筆者が予想していた以上に学習活動に役立つとともに、意欲の向上につながったと感じている学生が多く、平均値も高い。2013 年度、2014 年度とも「4.強くそう思う」と回答した学生が 6 割以上であることは注目すべき結果であろう。

表 4. 教師からのコメントは学習意欲の向上につながったと思う。

	4	3	2	1	平均値
2013 年度	13 (61.9)	6 (28.6)	2 (9.5)	0 (0.0)	3.52
2014 年度	12 (75.0)	4 (25.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	3.75

表 5. 教師からのコメントは自己の学習活動の改善に役立ったと思う。

	4	3	2	1	平均値
2013 年度	13 (61.9)	7 (33.3)	1 (4.8)	0 (0.0)	3.57
2014 年度	12 (75.0)	4 (25.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	3.75

自由記述 3 の中で多く見られたキーワードは、「アドバイス」、「コミュニケーション」、「がんばる」である。以下に何点かを挙げる。

(2013) 授業にはできない会話ができるのでコミュニケーションを取る手段としていい方法だと思います。ポイントなどを教えてくださる時もあるので身のためになるし、ちゃんと見てくれてるんだなと思って私は頑張れました。

(2013) しっかり一つずつ詳しくコメントしてくださるので、こういう所をもっと頑張れば良いんだなと思うことができました。

(2013) とても嬉しかった。詳しく色々なことを書いてくれたので、分かりやすかったし、共感・励まされる度に頑張ろうと思った。

(2013) しっかり見てリアクションが返ってくるという点で、しっかり対応してくれている



と感じれて良いと思います。またアドバイス等も参考になりました。

(2013) 第三者からの視点でコメントしてもらうことで新たに気づくこともあったので良かったなと思いました。

(2013) ちゃんと一人一人を見ていてくれるんだなと感じました。

(2014) 授業では出来なかった質問や、間違ってしまったポイントを先生からのコメントを通してコミュニケーションを取ることができたので良かったです。先生からほめていただいた時には、これからも頑張ろう！という気持ちになりました。

(2014) 先生のコメントで本当にひとりひとりの内容理解やディクテーションの解答を見ているんだなと感じ、今後どのようにすればいいかなどのアドバイスもありうれしく思いました。

リフレクション・シートにより、学生が自己の取り組みを振り返る機会を毎回持った事と共に、教員が毎回学習者の学習状況のチェックを基にコメントし、アドバイスを与え、学習者一人一人の取り組みに目を向けていることを示したことが学習者の学習意欲の向上、さらには自律的学習へと発展させることができたと考えられるのではないだろうか。

### (3) セルフ・チェックリストに関して

セルフ・チェックリストに関する2項目の結果は、表6、表7の通りである。2013年度の平均値が2.95と少し低めではあるが、2013、2014年度とも8割以上の学生が学習意欲の向上につながったと思うと回答していることから、少なからず効果はあったと考えていいであろう。また、リスニング・スピーキングそれぞれについて最初の授業で設定した自分の到達目標を定期的に自己評価するということが有意義だと感じた学生がどちらの年度でも8割以上となっている。

表6. チェックリストで定期的に自己の到達度を評価することは学習意欲の向上につながったと思う。

	4	3	2	1	平均値
2013 年度	2 (9.5)	16 (76.2)	3 (14.3)	0 (0.0)	2.95
2014 年度	5 (31.3)	9 (56.2)	2 (12.5)	0 (0.0)	3.25

表6. 具体的な自分の到達目標を設定し、定期的に到達度を評価することは有意義だと思う。

	4	3	2	1	平均値
2013 年度	3 (14.3)	17 (80.9)	1 (4.8)	0 (0.0)	3.09
2014 年度	7 (43.8)	8 (50.0)	1 (6.2)	0 (0.0)	3.38

### (4) ポートフォリオを用いた英語学習に関して

最後に、ポートフォリオを用いることで学生が主体的に英語を学ぶことができたかについての結果は表8の通りである。平均値が2013年度3.57、2014年度3.88と高いが、特に注目すべき点は、「4.強くそう思う」と回答した学生が2013年度は約57%、2014年度は約87%と半

数以上であることである。その理由としては、上で述べたように、「学習ファイル」、「リフレクション・シート」、「セルフ・チェックリスト」の導入によるところが大きいと言えるが、ポートフォリオをこの授業で導入する意義・目的を詳しく説明したことにも起因するのではないかと考えられる。先行研究（玉木、2008）で、自律的学習を促す手段として ELP を構成する一部である「学習日記」を導入したが、否定的に捉えた学生が多かった理由として、教員からの趣旨説明が不十分であったことを示唆していることから、筆者はポートフォリオを使用する意義・目的を第 1 回目の授業ガイダンスで説明した。その結果、表 9 に見られる通り 2013 年度、2014 年度ともにほぼ全員が説明に満足していることが伺える。

表 8. ポートフォリオを用いた授業は、主体的に英語を学習する方法として効果的だったと思う。

	4	3	2	1	平均値
2013 年度	12 (57.1)	9 (42.9)	0 (0.0)	0 (0.0)	3.57
2014 年度	14 (87.5)	2 (12.5)	0 (0.0)	0 (0.0)	3.88

表 9. 第 1 回目授業での、ポートフォリオを用いた授業の目的の説明は十分だったと思う。

	4	3	2	1	平均値
2013 年度	11 (52.4)	10 (47.6)	0 (0.0)	0 (0.0)	3.52
2014 年度	11 (68.8)	4 (25.0)	1 (6.2)	0 (0.0)	3.63

## 7. まとめ

本研究では、ポートフォリオを導入した英語授業が、学習意欲を向上させ自律的学習を促すことに効果があるかを検証した。今回、筆者が導入したポートフォリオは ELP のような正式なポートフォリオと比べかなり簡略化された版といえるものであるが、アンケートの数値的結果、自由記述の両方から、ポートフォリオを取り入れた授業は多くの学生に肯定的に受け入れられ、ポートフォリオを学習者の自律性・学習意欲を向上させる教授学習手段として使用することの効果が認められたと言えるであろう。学生達は自分自身のフォルダーを作ることで自らの学習過程を管理し自己の学習活動を積み重ねていくことに達成感を感じ、リフレクション・シートで自己の弱点や力の向上を認識することで目標・課題を見つけだし、意欲的に、自律的に英語学習に取り組んでいったことが自由記述から伺える。中には最初、毎回記録をつけることが少なからず面倒だと感じていた学生もいたが、教師からのコメントを励みに、振り返り記録していくことの意義を徐々に感じていくようになったようである。「内省」や「振り返り」という作業はポートフォリオを有効に活用するためには非常に重要な特徴だと言える。内省なしでは、ポートフォリオは単にすべてのプリントを集めたファイルに過ぎないとも言え、その点でも、ポートフォリオ学習におけるリフレクション・シートの役割は大きいと言えるであろう。

さらに、筆者が想像していた以上に、教師からフィードバックを受ける形での協働活動が学習意欲の向上につながったことがアンケート結果と自由記述から明らかになった。リフレクシ

ョン・シートに教員が毎回コメントを書き入れることにより、学習のアドバイスを与えるだけでなく、学習者と教員のコミュニケーションの手段にもなり、教員が一人一人を受け入れる姿勢を示すことによって、学習者の学習意欲の向上、更には自律的学習への取り組みとつながったと言えるであろう。学習者の学びの省察に教員が寄り添う手立てを行うことで、その効果が一層高まると言えるのではないだろうか。ポートフォリオ学習を成功させるためには教員のきめ細かな支援が重要であることが本研究で明らかになったと言えよう。一方、筆者もポートフォリオを活用して、個々の学習者の学習の軌跡を確認し内省を深め、教師オートノミーの促進につなげることができたと言える。ポートフォリオは、作成過程の中で学習者が自己省察を行う機会を与え、同時に教師もポートフォリオに毎回記述された学習者の自己省察的コメントをオンラインで観察し適切な支援を与えることが可能であると言えよう。このように、ポートフォリオは、学習者と教師が互いにフィードバックを受け取るための媒体としての役割を果たし、「協働評価」として学習者と教師の両者に有益な効果をもたらすとも言えるであろう。

テキスト教材に比べ、ポートフォリオをクラスに導入することは教材の作成、学習ファイルの点検など教師にとっても大きな負担である。さらに全員のリフレクション・シートに毎回コメントを書くことにもかなりの時間を費やし容易なことではない。しかしながら、ポートフォリオを導入することで学習者の自律性・学習意欲といった情意的レベルで大きな効果を与えた結果を見ると、今後も改善を行いながらポートフォリオ学習を継続していきたいと思う。

#### 参考文献

- Carrell, P. L. (1998) Can reading strategies be successfully taught? *The Language Teacher*, 22, 7-14.
- Danielson, C. & Abrutyn, L. (1997) *An introduction to using portfolios in the classroom*. Alexandria, VA: ASCD.
- 加藤千博 (2010) 「自律的学習のための学習者ポートフォリオの有用性」『横浜市立大学論叢』第 61 号、49-69
- 小嶋英夫・尾関直子・廣森友人 (2010) 『成長する英語学習』大修館書店
- Little, D. (2002). The European Language Portfolio: structures, origins, implementation and challenges. *Language Teaching*, 35, 182-189.
- 峯石緑 (2002) 『大学英語教育における教授手段としてのポートフォリオに関する研究』溪水社
- 新沼昭和・中川武 (2005) 「大学・短期大学におけるポートフォリオ学習を用いた英語教育」『高知学園短期大学紀要』第 36 号、17-35
- 下絵津子 (2006) 「第二言語教育におけるポートフォリオの活用」『宮崎公立大学人文学部紀要』第 14 巻 第 1 号、149-167
- Smolen, L., Newman, C., Wathen, T., & Lee, D. (1995) Developing student self-assessment strategies. *TESOL Journal*, 5, 22-27.
- 玉木佳代子 (2008) 「初級ドイツ語クラスにおける「学習日記」と「学習チェックリスト」の

実践－自律的学習に向けての取り組み－」『立命館高等教育研究』第8号、163-174 立命館大学教育開発・支援センター

(2015年8月20日 受理)

## 資料 2: セルフ・チェックシート記入例

### セルフ・チェックシート (3)

＜第 15 回授業＞	30 年 7 月 17 日＞	できる	なんとか できる	あまり できない	まだ できない
落ちる音（聞こえなくなる音）を含む単語、フレーズの聞き取りができる	○				
つながって聞こえる音を含む単語、フレーズの聞き取りができる	○				
単語ごとでなく、意味のかたまりで理解しようとする		○			
話し手の意図を推測しながら聞こうとする		○			
何が話されているか場面の状況から推測しながら聞こうとする	○				
イントネーションを手がかりに発話の意図や話し手の感情をくみとろうとする	○				
キーになる単語やフレーズを探りながら会話を理解しようとする		○			
様々な音声変化を含むフレーズの聞き取りができる		○			
聞き手に聞こえる程度ロウで音読・発話練習している		○			
英語らしく聞こえるように音声変化に注意して音読している		○			
神読みにならないように英語らしいリズムやイントネーションで音読している		○			
セリフに抑揚をつけて感情を込め、役になりきって友達と発話練習している			○		
<p>＜リスニングについての自分自身の到達目標をどのくらい達成できているか自己評価しましょう＞</p> <p>音楽に集中する、10秒間を覚える、多語から推測して聞けるようになった！ スピードの速さによっても聞き取りに違いがある、以前よりも速いスピードで理解できるようになった。</p>					
<p>＜スピーキングについての自分自身の到達目標をどのくらい達成できているか自己評価しましょう＞</p> <p>音楽には意識と身ぶり、声は必要練習が足りなかった。 声にならない、聞き取れずにもつれたから、1分間を10秒よりも長く練習した。</p>					